

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 自らの課題に気づき、学び続ける子	堺市立 日置荘西小学校 校長 石田 愛
-------------------------------------	------------------------

令和7年度 重点目標 ◆「ひ＝一人ひとりの個性を大切に」…発達段階や特性に応じた児童理解を進め、一人ひとりを大切にし個性や可能性を伸ばす ◆「き＝きれいで落ち着き」…規範意識を持ち、互いの立場を思いやることのできる豊かな心を育てる ◆「に＝にこにこ笑顔あふれる環境のもと」…健やかで安心安全、秩序と活気のある教育環境づくり ◆「し＝しっかり考え、学びあう児童を育成」…自ら学び、他者と協働しながら、学んだことを生かしていける資質・能力の育成 を、保護者・地域との連携・協働のうえ、教職員のチーム力を持って取り組む。

確かな学びの現状 ○「日置西スタンダード」を数年間提示してきており、未だに定着度にばらつきが見られるものの、その定着度はあがっている。 ○「検証分析改善シート」の結果より、学習することが大切だと感じている児童が多い。 ○落ち着いた課題に取り組む姿や、意欲的に学びを進める姿が多く見られる。一方で、自分の思いを話したり、相手に伝わるように書いたり、説明したりすることに苦手意識を感じ、どうすればよいか困っている児童もいる。 ○自己や友だち、教師との対話の中で、新たな見方や考え方に気づき、考えを深めることができている場面も増えてきてはいるが、まだ定着できたとは言いがたい。	豊かな心・健やかな体の現状 ○居場所と出番のある安心できる学級づくりを行い、積極的に学んだり、関わり合ったりする中で、豊かな心を育成する。 ○なかよし会など異学年集団での活動を通して、リーダー性・自主性を育成する。 ○体育授業で児童振り返りを活用し、体力向上をめざす。 ○生活集団については朝食喫食率は高いが、就寝時刻を守れている児童の割合が低い。
--	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	特別支援	人と人との関係や教室環境など、学習環境のユニバーサルデザイン化を図り、どの子も集中して学べる環境づくりをすすめる。	「日置西スタンダード」にもとづき、学習環境のユニバーサルデザイン化について共通理解し取り組むことで、どの子にもわかりやすく、集中して学べる環境づくりをすすめる。	児童アンケート(肯定80%以上) 「1日の流れを分かって生活できている」「授業中、落ち着いて学習に取り組めている」	教育アンケート	年度末	○ 毎月末に「日置西スタンダード」(支援版)にもとづいて、環境整備等ができていのかを確認している。また、評価を教師自身が自分で振り返ることにより定着が進んでいる。	○ 全学年が両項目で80%以上の肯定的結果が表れた。普段の授業や行事等で流れを丁寧に確認しながら、自ら考えて行動する力を発揮する場面にさらに多く見られた。	○ 教室環境の整理整頓や「日置西スタンダード」の定着が進み、児童が落ち着いて学べる環境が整っていると感じる。教職員が定期的に点検し改善を続ける姿勢が学校全体の学習意欲につながっている。
	教科学習	自ら学びを進めることができる児童を育てるために、今年度から「子と子のつながり」「ふりかえり」「言語活動の充実」「ICT活用」の4つを重点目標に置いて授業づくりに努め、児童一人ひとりの資質・能力の向上をめざす。また、日置西スタンダードとして、研修・人権・支援の3つの視点から自身を見つめ、児童が学ぶ土台作りの徹底をはかる。	●★他者や指導者との対話、ICT、本などの資料の活用によって、新たな見方・考え方に気づき、自分の考えをより深めることができる児童を育てる。 児童一人ひとりの学びを見とる目を養いながら、授業力向上にむけて研修テーマにそった授業研究をグループで行い、それについて討議し、授業改善に活かす。 ●学習のまとめとして、自らの学習をふりかえる活動や、次の学習につなげる活動を、意図的に授業で用いる。	児童アンケート(肯定80%以上) 低中高の「考えの深まり」を示す項目 「タブレット・本などの資料を使って調べる活動を行っている。」	教育アンケート	年度末	○ ICTや本などで情報を得つつ、友だちや先生との対話活動に意欲的に取り組み、考えを深めている児童が多い。「研を通して教師の自主研修も進めている。」	○ 全学年が両項目で80%以上の肯定的結果が表れた。また、「タブレット・本を使った調べ活動」については全体で90%以上の肯定的評価が示され、より主体的な学びが広がっていることが分かった。	○ 対話的な学びやICT活用が自然に行われ、児童が主体的に考えを深めていると感じる。調べ学習や話し合いの質も向上しており、教職員の工夫が子どもたちの学びに確実に生かされている。
			児童一人ひとりの学びを見とる目を養いながら、授業力向上にむけて研修テーマにそった授業研究をグループで行い、それについて討議し、授業改善に活かす。	研究授業・公開授業を年に6本以上行う。	実践報告	毎学期	○ 2・5・6年が研究授業・公開授業を行った。授業後に検討会を行い、授業改善に努めることができている。また支援学級・通級学級でも公開授業を行い、児童理解にも努めている。	○ 全学年が研究授業・公開授業を行った。授業後には討議会を開き、意見交換を通して指導方法を見直しながら、日々の授業に的確に生かせるように継続して改善に努めることができた。	○ 全学年で公開授業や討議を重ね、授業改善につなげる取組が継続している。児童の理解を丁寧に確認し、必要な支援を行う姿勢が授業の質を高めていると感じる。
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	自分のよさを知り、多様な価値観を認め、人とつながり協働できる児童を育てる。	特別の教科道徳の年間計画に基づき、すべての教育活動において計画的・継続的に道徳教育を充実させる。	教科書や「未来をひらく」の効果的・計画的な活用。道徳の公開授業の実践。	実践報告	毎学期	○ 学習参観にて、全学級、年に1回以上の公開授業を実施している。校内研究授業でも研修を行った。各学級、おおむね計画通りに授業を行っている。道徳推進教師による公開授業を毎週行っている。	○ 学習参観にて全学級が年に1回以上の公開授業を実施できた。校内研究授業でも授業および討議会を継続的にを行い、年間の計画に沿って安定して授業を進めることが可能であった。	○ 年間計画に沿った授業が実践され、子どもが自他の思いや行動を考える姿が見られる。公開授業や研修も充実しており、心の教育が着実に根付いていると感じる。
			●教育活動全体を通して、友だちと学ぶ楽しさや達成感を味わったり、自他の良さに気づいたりできるように取り組み、安心できるなかまづくりを行う。	児童アンケート(肯定85%以上) 「学校が楽しい」 「困ったときに相談できる人がいる」 「学校で、友だちと仲良くすごしている」	教育アンケート	年度末	○ 学級や学年間で、授業、行事、友だちとの関わりを通して仲間づくりを行っている。また、校外学習、なかよし会、クラブ・委員会活動、連合運動会や連合音楽会の壮行会を通して、学年の枠を超えて関わることができている。	○ 年間を通して他学年と関わることができた。アンケートの結果では、学校は楽しく、友だちとも仲良く過ごせている様子がわかった。休み時間にも異学年での遊びも増えてきた。なかよし会も年間を通して積極的に活動できた。	○ 行事やなかよし会などを通して、児童同士のつながりが豊かに育っている。思いやりをもって友だちを助ける姿も見られ、安心して過ごせる学校づくりが進んでいる。
			学校生活において、あいさつやそうじなど、活動の意義を理解することで、豊かな心を育み、意欲的に取り組む力を育成する。	児童アンケート(肯定90%以上) 「あいさつを自分からしている」 「そうじを最後までしっかり取り組んでいる」	教育アンケート	年度末	○ あいさつに関しては、児童会の取り組みとしてあいさつ運動に取り組んでいる。掃除では責任感を持って自分の分担場所を最後まで行わせ、片付けへの声かけ等は続けていきたい。また、時間を守ることを意識できるよう指導を続けていく。	○ あいさつを進んでする児童が増えてきた。児童会活動でもあいさつ運動などの活動を行った。これからも進んであいさつができるように声かけしていきたい。また高学年の方が肯定的な意見が多かったことから、下の学年の手本になっているように思える。掃除に関しては頑張っている様子も見られ、子どもたちも肯定的に捉えることができていた。	○ 児童会を中心にあいさつ運動が活発で、高学年がよい手本となっている。掃除への取り組みも丁寧で、基本的な生活習慣が学校全体に根付いていると感じる。また、日々の関わりの中で、互いに気持ちよく過ごそうとする意識が広がっている。
体育・保健	児童の振り返り・げんきアップカードを活用し、健康な体づくりをする。	児童の振り返りを活用し、課題解決型の体育の授業を充実させ、体力向上を図る。 げんきアップカードで、規則正しい生活習慣についての啓発を行う。	①児童アンケート肯定90%以上 「うまくなるように考えて運動している」 ②げんきアップカードを年3回実施、生活習慣に関する保健指導を年1回実施	①教育アンケート ②げんきアップカード	年度末	○ 各単元で振り返りカードを作成し、体育授業の充実と向上に取り組んでいる。	○ ①概ね達成した。しかし、運動に対して苦手意識を持っている児童もいるので、引き続き振り返りカードを活用したり、友達と協力したりして運動の大切さを学んでいけるように指導していく。 ②計画通り実施した。今後も継続して取り組んでいく。	○ 振り返りカードを活用した体育の学習が定着し、課題に向かって努力する姿が見られる。げんきアップカードによる生活習慣づくりも継続され、健康意識の向上につながっている。こうした取組が子どもたちの体力づくりを確かなものにしていくと感じる。	
地域協働	地域共育学校	学校情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域住民による学校評価、学校経営への参画、授業への参加により、地域に信頼される学校づくりを進める。	学校だより「いとはぎ」、学年だより、ホームページ等を活用し、教育活動の現状や、学校、学級での取り組みの発信に努める。	学校ホームページを毎日更新し、情報を発信することで、本校教育活動への関心を高める。	HPアクセス統計	毎月	○ 学校ホームページについては、ほぼ毎日更新することができている。プライバシーの問題に配慮しながら、本校教育活動への関心が高まるよう発信を続ける。	○ 保護者への教育アンケート「学校は、手紙やホームページ等で教育内容や事務連絡をわかりやすく伝えていく。」において、肯定的な回答を100%いただくことができた。これからは頻度の維持と質の向上に努めていく。	○ 学校だよりやホームページの更新が丁寧で、学校の様子や取組内容がわかりやすく整理されている点が評価できる。日々の活動がこまめに発信されているため、地域が学校の教育活動を理解しやすい環境が整えられていると感じる。
			●地域ボランティア等に教育活動の場に参加していただき、図書や特別支援等への支援を受けるとともに、学校経営への参画や学校評価への協力を受け、学校改善を図る。	地域ボランティア等への協力依頼回数、活動回数の維持に努めながら、学校改善に繋げられるよう地域との連携を深める。	実践報告	年度末	○ 例年通りの回数・頻度を維持しながら、地域の方や地域ボランティアの方と連携することができている。意見等の交流を活発化させながら向上に努める。	○ 回数と頻度を維持することができた。一方、活動を進める中で課題もあつた。ボランティアの方の高齢化や共働き世帯の増加など、社会的な環境の変化に合わせて、PTA活動との連携や地域との活動の在り方についても検討を続けていく必要がある。	○ 地域ボランティアの活動が継続しており、地域の状況が変化する中であっても、協力体制を保ちながら教育活動を支えている点は大きな強みである。また、地域の意見を柔軟に取り入れようとする学校の姿勢も見られ、今後さらに協働が深まることが期待できる。

校長より(年度末) 本年度も、児童一人ひとりが安心して学びに向かえる環境づくりをめざし、教職員が一丸となって教育活動を進めてきた。教室環境の整備や「日置西スタンダード」の定着を継続して図ったことで、児童の落ち着いた学習態度が定着し、自ら考えを深めようとする姿が日常的に見られるようになった。ICT活用や言語活動の充実、対話を重視した授業改善にも取り組み、主体的に学ぶ児童の姿が確かな伸びを見せている。 ICT環境では、1人1台端末を活用し、基礎基本の習得だけでなく、自分の考えを整理・発信する力の育成が進んだ。発表ノートやスライドを使いこなし、学びを可視化しようとする児童が増えたことは大きな成果である。また「学びのコンパス」を推進し、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善を研修として進め、教職員の授業力向上にもつながった。今後も児童が自ら学びを計画し、仲間と関わりながら深める授業づくりを一層推進していく。 心の教育と学級づくりでは、多様性を尊重し、一人ひとりが安心して過ごせる居場所づくりを行ってきた。異学年交流や行事を通して思いやりのある関わりが増え、互いを認め合う温かい学校文化が育っている。あいさつ運動や掃除など生活習慣づくりにも継続して取り組み、高学年が模範となる良い循環が広がっている。 地域との連携では、学校だよりやホームページによる情報発信を継続し、学校への理解を深めてもらうことができた。地域ボランティアやPTAの皆様からの支援は教育活動を大きく支えてくれた。防災訓練や行事を通じた地域との協働は、児童の安心・安全にも寄与している。 本年度の成果は、教職員の努力に加え、保護者・地域の皆様からの温かい支援の賜物である。いただいた意見を真摯に受け止め、来年度の学校運営に生かしながら、児童のよりよい成長に向けて、学校全体で引き続き力を尽くしていきたい。	学校関係者評価者から(年度末) 本年度の教育活動は、児童が安心して学びに向かえる環境づくりが全校的に進んでおり、その取組の確かなと感じられるものであった。教室環境の整備や「日置西スタンダード」の定着が着実に図られ、授業参観時にも児童が落ち着いて学習に向かう姿が多く見られた。ICTの活用や対話を重視した授業づくりも定着し、児童が自ら考えを深めようとする態度が育っている点が評価できる。 また、道徳教育や異学年交流を通して心の育成も充実しており、児童同士が互いを尊重し、思いやりをもっと関わる姿が自然に見られた。あいさつ運動や掃除の取組も継続され、高学年がよい手本となって学校全体の生活習慣を支えている。体育・健康面についても、振り返りカードやげんきアップカードを活用した継続的な取組が進み、子どもたちの健康意識と体力向上に確かな効果が表れていると感じる。 さらに、学校だよりやホームページによる情報発信に丁寧に取り組み、学校の教育活動や日々の様子が地域にわかりやすく伝えられている。これにより、地域住民や保護者が学校への理解を深める機会が増え、学校と地域をつなぐ力となっている。加えて、多方面で地域ボランティアの協力が継続し、学校・PTA・地域が互いに支え合う体制が維持されていることも重要な強みといえる。 総じて、教育活動が児童の学びと成長に着実に寄与しており、学校全体が同じ方向を向いて前進していると評価できる。来年度も、これまで培ってきた取組を土台として、さらに質の高い教育環境が形成されていくことを期待する。
---	--